

# 「横地分類 (改訂大島分類)」

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類

し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

### <知能レベル>

E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可

### <特記事項>

- C:有意な眼瞼運動なし
- B:盲
- D:難聴
- U:両上肢機能全廃

- 寝返り不可
- 寝返り可
- 座位保持可
- 室内移動可
- 室内歩行可
- 戸外歩行可

### <移動機能レベル>

活動を立案するとき、「あきることに対する配慮は不可欠です。同じことを繰り返し行ったら、誰でもあきが来ます。同じ活動をあきずに拒否なく受け入れられていたら、その活動は、興味関心の広がりや阻害している良くないものによって変わってしまったとしなければなりません。あきて別のものを求めることは勧められることです。あきが出てきたなら、すぐ次の活動に転換しなければなりません。

以上のような考えに沿って、言葉を持たない重症心身障害児(者)に活動を提供し、満足

感・達成感を得てもらおうと思っています。その積み重ねが豊かな人生を送るといふことになると私たちは考えています。



## こだまの 日常活動紹介

加茂 夏希

こだまは7月よりゾーン再編のため、利用者も職員も新しい体制での生活を始めています。7月までは入所者のほとんどが医療的ケアのある方でしたが、半数が医療的ケアのない方になりました。

こだまの入所者20名のうち、横地分類ではA1…13名、A2…3名、B2…1名、C2…1名、D2…1名、D4…1名に分かれます。

A1のAさんは、職員の声掛けや楽器の音に目をキョロキョロさせたり、音のする方へ顔を向



けたりと音に対して聞こえてくるような反応があります。筋緊張のため体に力が入りやすく、眉間にしわが寄ることもありませんが、職員に抱っこされることで体の力が抜け、口元が緩むことがあります。日常活動ではAさんが心地良いと感じる刺激を提供しています。体全体を密着させて抱き、ゆっくり左右に揺れます。また優しく耳元で声をかけたり、手をゆつくり包み込むようにして触れたりもしています。それによりAさんの口元が緩み、眉間のしわがなくなる

ことがみられています。表出が見えにくいAさんですが、人の存在を感じながら、心に響く活動が出来るのが大切だと考えています。

B2のBさんは右麻痺はありますが、左手を使って雑誌のページをめくったり小さなプラスチックをつまんだりすることが出来ます。また、ソファで職員と寄り添い、話しかけられたり手遊びをしたりすることはとても楽しい時間です。Bさんは職員の提供した積木やS字フックを使った仕掛け(S字フックを棒にかける)に自ら手を伸ばし、「積み上げたい」「引っかけたい」という意欲が見られます。時には失敗しても繰り返し行うこ

## だいちの 日常活動紹介

小笠原 明美

今後も今までの利用者理解を更に深めて、質の良い日常活動を提供出来るよう一日一日を大切にしていきたいと思ひます。

だいちでは15名が生活しています。横地分類ではB4…1名、B6…3名、A5…2名、A6…1名、A6…8名に分かれます。

だいちの利用者はやりたいことが自分でできる人たちです。また、自分の中で生活の流れや行動ができ上がっています。本人が予想できない働きかけがあると、何かをやらされるのではないかと思うよう離れていってしまひ、やりとりがうまくできていないことが多いです。楽し